

令和3年度 全国学力・学習状況調の分析と対策（大蔵小学校）

国語

（1）全体調査結果の概要

- ・全国・県平均と比べ、多くの観点で上回っている。
- ・2三の、資料をまとめて書くことが全国・県平均と比べ18ポイント高くよくできていた。日頃から端的に文をまとめる訓練を行ってきた成果であると考えられる。3三（1）の漢字を書く問題もよくできており、これも日頃の漢字学習の成果だと考えられる。
- ・記述式の問題を含め、無回答率が2名ほどいたが最後まで取り組もうとする姿勢は見られた。

（2）国語に関して（○よい傾向の内容 △課題のある内容）

- 図表やグラフなどを用いて目的を捉える。
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。
- 目的に応じ、文章と図表とを結びつけて必要な情報を見つける。
- 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる。
- △目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する。
- △目的や意図に応じて、理由が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える。
- △文の中における主語述語との関係をとらえる。

【指導改善のポイント】

- ・主語述語の関係については、普段の学習の中でも見られる弱さがあるため、朝学習で行っている「文作り」を継続する必要がある。特に、主語述語を入れて作らせる必要がある。
- ・説明文では、自分たちの生活に近い内容であると初見の文であっても理解が高くなるが、自分たちとかかわりの少ない内容になると内容理解が落ちる。そのため、日ごろからたくさん本に触れ、いろいろな分野の本を読むことが大切である。
- ・漢字や主語述語、文の構造、要約など各学年の学習の積み重ねが子どもたちの習熟度にかかわってくる。各学年の指導内容を確認し意識的に抑えていくことが効果的である。
- ・問題の形式に慣れたり、時間配分についても意識させたりしていく必要がある。
- ・語彙力（同音異義語、四字熟語、慣用句など）をつける取組を続ける。

算数

（1）全体調査結果の概要

- ・正答率は全国や県平均を上回っている。
- ・無回答の児童は少なかったが、自分の考えをまとめて記述すること、何を表しているかを読み取り情報を判断することが必要であることが見えてきた。

（2）算数に関して（○よい傾向の内容 △課題のある内容）

- 三角形の面積の求め方について理解している。
- 複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることができる。
- 棒グラフから、数量や項目間の関係を読み取ることができる。
- 集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することができる。

△差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述することが苦手である。
△単位量に着目し、除法の式と商の意味を読み取ることに課題がある。
△示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断する力が弱い。

【指導改善のポイント】

- ・自分の考えを文章や式でまとめたりする時間を意図的に作る。
- ・自分の力で、問題の意図を正確にとらえ、必要な数値を選び、立式して答える場面を増やす。
- ・数字だけでなく、単位にも着目して立式し、答えを導き出す場面を増やす。

児童質問紙

(1) 分析結果 (○よい傾向の内容 △課題のある内容)

- 自己有用感があり、夢や目標もしっかりと持っている。
- 朝食を毎日食べる、毎日同じ時刻に寝起きするなど、安定した生活を送っている。
- 規範意識が高い。
- いじめはいけないことであるという回答がほとんどだった。
- 自分には良いところがあり、その良いところは認められているという回答が多かった。
- 人の役に立ちたいという意識が高い。
- 塾や家庭教師に教わっている児童は少ないが、計画を立てて学習する児童の割合が高く (92%)、取り組んでいる時間も長い。
- 自分たちの住む地域への関心があり、行事にも参加している (74%)。
- 国語や算数の学習に対する意欲が高い。
- 国語や算数は将来役に立つなど、学習に対する重要性は認識している。
- 解答を文章で書く問題も、最後まで解答を書こうと努力したと答えた児童がほとんどだった (国語95%) (算数100%)。
- 課題解決に向け、自分で考えて解決しようと取り組んだり、自分の考えを伝えようとしたりする児童が多い (約8割)。
- 休校中、計画的に学習したり規則正しい生活を送ったりしたと答えた児童は、70~80%だった。
- 休校中の課題で分からないことがあった時、家族に聞いた (87%) や自分で調べた (69%) 児童が多かった。
- △難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦しているかという問いで、「どちらかといえば、当てはまらない」と解答した児童が県や全国と比べると多かった。
- △読書 (17.4%)、新聞を読むこと (69.7%)、全くしない児童もいる。
- △授業の中で ICT を使うことは役に立つと思っているが、授業で ICT の活用頻度は、県や全国平均と比べると少ない。
- △コロナ休校中、勉強について不安に感じたと回答した児童がほとんどだった (90%)。

【指導改善のポイント】

- ・「失敗を恐れない」仕掛け作りをする。← (本学年の児童の特徴でもある)
- ・授業や家庭学習での ICT の効果的な使用方法を研究する。
- ・ICT を活用し、ネットニュースなどを利用しながら、社会への関心を深める。
- ・NIE に取り組み、新聞記事に関心を持てるように工夫する。
- ・国語の「読書」単元の効果的な活用方法を研究する。